

令和4年度 県立あわじ特別支援学校 学校自己評価結果

教育方針

児童生徒一人一人のニーズに応じた教育的支援を行い、自立や社会参加に必要な能力の伸長に努める。また、特別支援学校のセンター的機能を充実させ、特別支援教育の理解・啓発を推進する。

重点目標

1. 研修・授業研究等を通して教職員の専門性の一層の向上を図り、保護者・地域から信頼される学校づくりを推進する。
2. 淡路地区唯一の特別支援学校として、関係機関と連携し地域支援活動を充実させ、特別支援学校のセンター的機能を果たす。
3. 将来の社会的自立に向け現場実習・作業学習・体験活動の機会を充実させ、個に応じたキャリア教育を推進する。
4. 近隣校及び地域との交流及び共同学習を計画的に行い、障害のある児童生徒に対する理解を促進する。
5. 学校業務の見直しに組織的に取り組む。業務の効率化を図ることで教職員の勤務時間の適正化をさらに進める。また、業務遂行に関して服務規律の向上に邁進する。

重点目標	番号	部	評価項目	実践目標	評価値(名)					平均R4	平均R3	課題及び対応策
					4	3	2	1	0			
					4	3	2	1	0			
重点目標1	指導体制の確立	1	情報	授業へのICT活用の活性化に努めるために授業研究や活用事例の研究等に努める。SNS対策などを含めた情報モラル教育への取組を進める。	5	27	25	0	2.6	2.8	課題 十分な研修時間やモラル対策への授業時間の確保 対策 SNS対策研修等についても関係機関の発表している資料等を活用し十分な時間と内容を確保する。	
		2	教務	実践的指導力と専門性の向上 各担当教科でグループを形成し、学期に1回を目途に実践報告や相談を行い、実践指導力と専門性の向上を図る。普段の授業で副指導をする教員にコメントをもらい、自己研鑽する機会を作る。	5	34	15	3	2.7	2.8	課題 ①合わせた指導、教科指導の専門性のどちらかに焦点を当てて実施すべきであった。 ②生徒対応を考えて、公開授業に行きにくい教員がいた。 対策 ①次年度は、研修テーマを「特別の教科 道徳」とし、公開授業も「特別の教科 道徳」（または、「特別の教科 道徳」を含んだ合わせた指導）とする。	
		3	相談	計画性を持った研修の実施 外部人材（作業療法士、言語聴覚士、スクールカウンセラー）を活用し、児童生徒の実態に即した指導法を研修し、日々の授業に役立てる。	12	33	9	3	2.9	3.1	課題 大学教授などを招いての研修の費用の確保 対策 県知研の費用が使えないか	
		4	教務	個々の課題を明確にした「個別の指導計画」の作成 保護者との対話を通して、目標を確認する機会を持ち、家庭と学校が同一方向を向いた指導を展開できる計画の作成を行う。	16	32	8	1	3.1	3.3	評価 4月の家庭訪問や懇談等で、保護者の思いを聞き、保護者と同一の方向を向いて作成する流れができた。	
		5	相談	「個別の教育支援計画」の作成と活用 相談担当者と学部・学年が連携し、「個別の教育支援計画」に基づく引継ぎを行い、指導に活かす。保護者や関係機関とともに「個別の教育支援計画」を作成し、アセスメントに基づいた支援を行う。	14	34	8	1	3.1	3.2	課題 新指導計画へのスムーズな移行 対策 マニュアルの改善と来年度早期に研修の時間を取る	
		6	生指	確かな人権意識の育成 年2回以上の職員研修を行い、職員の人権意識を高めるとともに、人権教育全体計画をもとに児童生徒に対しても発達段階に応じた人権教育を行う。	7	36	12	2	2.8	2.7	今年度は一度の人権研修となったが、現在問題となっているヤングケアラーについて全職員で考える時間となった。何年か一度は特別講師を招き、専門的な内容や当事者の気持ちを聞けるような内容を実施し、より人権意識を高められるようにしていきたい。また、児童生徒に関しては実態に応じた内容を日常生活の中で指導できるように計画を立てる。	
		7	生指	いじめ問題への対応 児童生徒がいじめを行ったり、いじめに遭ったりすることを予防し、いじめが起こった際には迅速かつ組織的に対応できるように、全職員がいじめ対応能力の向上を図る。	14	29	13	1	3.0	3.2	日常生活の中でいじめの未然防止ができるように運営する。また次年度いじめに関するアンケートを実施し、早期発見に努める。さらに次年度より教員のいじめ対応の意識向上を目指し教員向けのアンケートを実施予定。組織的に動けるように学校いじめ防止基本方針を年度初めに全体に周知する。	
		8	保健	性に関する指導 性教育の全体計画をもとに、各教科・領域において性に関する指導が実施できるよう推進する。	5	26	23	3	2.6	2.6	課題 全体計画および年間指導計画による指導の実施に加え、生徒児童の発達段階（実態）を把握し個に応じた指導を充実させる。 対策 ・生徒の実態に応じて適宜実施する。（実施の時、対象者、指導者の検討要） ・生徒の状況など生徒指導部と連携し、指導者は固定せず流動的な指導体制が望ましい。	
		9	保健	学校保健・学校安全に関する指導 学校保健・学校安全計画を作成し、月目標を設定し管理および教育を推進する。今年度においては、コロナウイルス感染拡大により、社会の動向と状況をふまえ、児童・生徒の感染リスクを判断し、実態に応じた感染症予防に取り組む。	17	30	8	2	3.1	3.2	課題 昨年度に引き続きコロナウイルス感染予防対策について、予防にともなう消耗品や消毒作業など保健部に加え学部学年の協力により対応することができた。将来を見据え感染予防対策の予算削減に伴う、消耗品の見直しなどの検討を必要とする。 対策 新型コロナの「5類」引き下げに伴う感染予防対策の緩和について、学校生活で必要とされる対策を職員全体で共有しながら取り組む。	
		10	保健	学校給食を通した指導 給食における毎月の指導目標を明確にし、組織的な取組で指導の充実を図る。	18	29	9	1	3.1	3.1	課題 給食だより、ひとことだより等の活用はもとより、高等部、小中学部の委員会活動と連携して指導することができた。今後も食育を学校全体で組織的に推進していく。 対策 今年度の取り組みを次年度も継続する。感染症対策については、状況に応じて改善をおこなう。	
重点目標2	信頼される学校づくり	11	情報	保護者及び地域への情報発信 HPでの情報発信を活性化して各種活動情報の伝達を行う。マチコミを利用した緊急時における情報伝達を行う。	9	38	8	2	2.9	3.2	課題 HP等の更新の頻度改善 対策 次年度より新しいデータのアップシステムを採用。更新頻度の向上が見込まれる。	
		12	総務	保護者及び地域への情報発信 広報「ちくさ」及び「学部・学年だより」により情報提供を行う。	21	29	5	2	3.2	3.5	課題 広報「ちくさ」3学期号とPTA会報の発行が同時期となり、記事の執筆者が載せる内容に苦慮した。 対策 広報「ちくさ」を1学期と2学期に整理した。内容については、1学期号で各学部紹介から職員紹介に変える。	
		13	総務	親切で適切な対応 日ごろの連絡帳でのやり取りやPTA役員会等で保護者の意見や疑問点など受け、丁寧に対応する。	21	30	5	1	3.2	3.3	課題 PTA役員会で十分な意見交換をおこなう。 対策 役員会での意見を検討しながら行事として実現していく。アンケートを実施し、保護者のニーズをつかむ。	
		14	教務	授業公開 授業参観、オープンスクール、その他行事をHP等で広報し、保護者並びに地域の方々に広く公開する。	9	36	10	2	2.9	3.1	課題 ①新型コロナ感染症感染拡大防止のため、オープンスクールは実施しなかった。 ②懇談と授業参観が重なる日に多くの保護者が殺到し、駐車場が混雑した。 対応 ①対象者を各日で限定する等の人数制限をし、実施の方向で進める。 ②学部学年ごとに、懇談と授業参観の曜日を換え、1日の総来校者数を制限する。	
		15	総務	危機管理に関する実践的な研修と訓練 消防署、警察署等の協力を得て、火災避難訓練、地震津波避難訓練、不審者対応研修を計画・実施する。	17	32	7	1	3.1	3.1	課題 備蓄品の購入が遅れてしまい、1年生は空白の時間が生じてしまった。 対策 4月当初に備蓄品の購入希望を取り、早い段階で更新する。	
		16	生指	個性を活かし、社会性、積極性を育てる体験活動の展開 活動を通して個性を発揮し、積極性や社会性、コミュニケーション能力を育むことができるように、児童生徒会活動や交流活動、体験活動等を計画的に行う。	12	35	9	1	3.0	3.0	生徒会で話し合い、体育祭や学習発表会、スポーツ大会の運営に携わった。交流活動に関してはスポーツ大会のみとなっている。実施する分野を増やしていくか検討する。	
		17	教務	個人情報の管理 情報部の協力のもと、個人情報データについてはファイルサーバを活用して管理する。また、紙媒体に関しては、鍵付きロッカーに保管することを徹底する。	22	28	6	1	3.2	3.3	評価 ファイルサーバ上に個人情報データは保管、紙媒体は鍵のかかるロッカーに保管されている。 課題 個人ファイルが鍵のかかるロッカーに保管されていないことがある。 対応 個人ファイルは、必要に応じてロッカーから出すことを徹底する。	
重点目標2	センター的機能	18	相談	理解啓発 地域のニーズに基づいたテーマで公開講座を行う。「職員向けの広報誌（支援部だより）」や「保護者向けの広報誌（きゃっちぼー）」を発行し、理解啓発・情報発信に努める。	23	25	6	3	3.2	3.3	課題 コロナが5類に移行してからの公開講座の持ち方 対策 今後もオンラインと対面の併用を予定している	
		19	相談	教育相談 関係機関とも連携し、校内外の多様化するニーズに対応する。複数体制での教育相談を計画的に実施し、相談の質の向上と支援部員全体の専門性の向上を図る。	14	33	8	2	3.0	3.2	課題 一般校のニーズの多様化、情報共有の時間の確保 対策 ケース会議などを通じた機関と信頼関係を築く、こまめな電話やメールでの連絡など	
重点目標3	個に応じたキャリア教育	20	進路	関係機関との連携 関係機関との連携を深めながら、進路に関わる情報を共有し、協同して情報発信に努める。	14	34	9	0	3.1	3.2	課題 関係機関の間では、情報共有がなされてきているが、支援機関によって生徒や保護者への伝え方が、一定せず十分な効果が発揮できないことがあった。 対応 適宜ケース会議を開き関係機関と緊密に連携し、情報発信に努める。	
		21	進路	認定資格への対応 技能検定受験に向けて組織的な指導体制を確立して取り組む。外部人材を活用し、実践面を意識した授業づくりに資する。	18	29	9	1	3.1	3.2	課題 組織的な対応が不十分で指導しきれない部分があった。 対応 期首に研修会を開き、一致して指導にあたる。	
		22	進路	就労体験活動の実施 生徒の希望や適性に応じた個別現場実習等を適宜実施する。また、生徒の就労を見据えた新たな実習先を開拓する。	19	29	6	3	3.1	3.3	課題 生徒の居住地や希望に合わせた進路開拓は概ねできている。その一方で、コロナ禍により、実習の時期に遅れが発生した。 対応 コロナ感染拡大の状況を鑑みつつ、実習時期を前倒して、遅れを吸収できるようにする。	
重点目標4	交流及び共同学習	23	生指	洲本高等学校との交流 本校児童生徒への理解の促進と特別支援教育への啓発を進めるため、お互いの児童生徒が発信しあえる交流の場を計画する。	11	33	12	1	2.9	3.2	毎年行っているミュージックダンス部との交流では本校の生徒の好きな曲をリクエストして実施した。ダンス動画を観ながら事前に練習をしてから交流を行った。また学習発表会のアナウンス原稿を録音していただき演技前に流して交流した。	
		24	生指	居住他校交流 本校児童生徒が居住する地域の友だちと親しく触れ合い、お互いの様子を理解し社会性を養うため、児童生徒自身の意思を尊重した交流を計画する。	12	28	14	3	2.9	3.0	次年度においても個々の実態に応じた交流を実施できるように副籍校と情報共有や密な計画を立てられるように運営していく。次年度より副籍が始まることを受け、よりスムーズに交流に取り掛かることができると考えられる。副籍校だけではなく各市教育委員会へも「様式1副籍を持つ児童生徒の居住地校交流希望等一覧」を通して情報を共有できるようにする。	
		25	生指	学校間交流 本校の児童生徒への理解の促進と特別支援教育に対する啓発を進めるために、障害の実態やそれに伴う配慮事項を適切に伝え、担当者間の連絡を密にとる。	9	36	11	1	2.9	2.9	コロナ禍より基本的に学年ごとに学校間交流を実施している。そのことにより学年ごとのカラーで交流することができ、少人数で行うことで生徒への配慮ができていくことや障害理解につながる交流となっているように感じる。次年度も高3はペア校である洲本高等学校、高2は洲本実業高等学校、高1は淡路三原高等学校、全校生（PTA）は津名高等学校と交流をする。小学部は引き続き近隣にある洲本市立洲本第三小学校と交流を行う。	
重点目標5	学校業務の見直し	26	校運	勤務時間の適正化 定時退勤日（金曜日）の動行を目指し、職員の意識改革を図る。各自が計画的・効率的な業務遂行を工夫する。	10	25	20	2	2.8	3.0	「金曜日は定時退勤日」と意識付けは図れたが、完全実施には至らなかった。月に1回だけでもの完全実施を目指して取り組む。各自がタイムマネジメントを意識し、計画的、効率的に業務に取り組む。各部の業務の分担化、均一化を図る。	
		27	校運	業務の効率化 共有ネットワーク・グループウェアを有効に活用する。各種会議や研修会を計画的・効率的に運営する。各種行事の精選と内容の見直しを図る。	6	32	16	0	2.8	3.0	対応 各学年・学部・各専門部の活動や会議等が円滑になるように担当者が必要なデータを整理した上で、共有フォルダ内で保存し、有効活用することで次年度の業務の引継ぎがスムーズになるようにする。各種行事の精選と見直しを図る。	